

第4部 資料編

1 将来人口の推計

将来人口の推計は、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」から推計しています。

本計画における推計人口

単位：人

年度	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)	2028 (R 10)	2029 (R 11)
人口	232,770	229,339	225,958	222,627	219,345
年度	2030 (R 12)	2031 (R 13)	2032 (R 14)	2033 (R 15)	2034 (R 16)
人口	216,112	212,652	209,247	205,897	202,600

※ 社人研による推計値以外は、統計的手法により補完して設定

2 ごみの組成割合等

1 家庭系ごみの組成割合

単位：％

区 分			重量比							
			燃やせるごみ				燃やせないごみ			
			2018 (H30)	2020 (R 2)	2022 (R 4)	平均	2019 (R元)	2021 (R 3)	2023 (R 5)	平均
資源になるもの	容器包装潜在分	トレイ	0.41	0.15	1.88	0.81	0.01未満	0.00	0.00	0.00
		包装フィルム・ラップ類・袋類	2.01	2.56	2.86	2.48	0.00	0.00	0.25	0.08
		バック・カップ類	0.88	1.29	0.57	0.91	0.01	0.00	0.00	0.00
		ボトル類	0.52	1.35	0.65	0.84	0.07	1.55	0.33	0.65
		発泡スチロール類	0.00	0.01未満	0.07	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
		アルミとの複合素材	0.54	0.72	0.73	0.66	0.01	0.00	0.00	0.00
		チューブ類	0.04	0.00	0.15	0.06	0.09	0.00	0.00	0.03
		レジ袋	0.30	0.05	0.04	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00
		その他	0.02	0.12	0.05	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
		計	4.72	6.24	7.00	5.99	0.18	1.55	0.58	0.77
	缶・びん・ペットボトル潜在分	缶 スチール	0.00	0.00	0.00	0.00	1.42	0.01	1.63	1.02
		缶 アルミ	0.07	0.00	0.01	0.03	0.27	0.00	0.01	0.09
		ガラスびん	0.14	0.07	0.00	0.07	9.09	2.88	6.14	6.04
		ペットボトル	0.08	0.00	0.05	0.04	0.39	0.01	0.00	0.13
		計	0.29	0.07	0.06	0.14	11.17	2.90	7.78	7.28
	資源回収潜在分	ダンボール	0.47	0.41	0.07	0.32	0.00	0.00	0.03	0.01
		紙バック	0.54	0.58	0.87	0.66	0.00	0.00	0.02	0.01
		新聞	0.65	0.99	1.51	1.05	0.00	0.00	0.14	0.05
		雑誌	1.32	0.00	0.51	0.61	0.00	0.00	0.00	0.00
		紙製箱 その他紙	1.37	2.74	3.66	2.59	0.00	0.03	0.06	0.03
		計	4.35	4.72	6.62	5.23	0.00	0.03	0.25	0.09
	資源ごみ 計		9.36	11.03	13.68	11.36	11.35	4.48	8.61	8.15
ごみ	紙類	ダンボール	20.88	19.87	21.99	20.91	0.64	0.18	0.29	0.37
		紙バック								
		新聞・雑誌								
		その他紙								
	厨芥類	食品未開封・未使用	3.77	3.31	3.48	3.52	0.00	0.11	0.00	0.04
		調理くず・その他	42.22	21.22	36.77	33.40	0.00	0.05	0.00	0.02
	草木類	50cm未満	3.99	7.68	1.99	4.55	1.50	0.40	0.91	0.94
		50cm以上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.11
	金属類		0.08	0.28	0.06	0.14	20.37	31.03	22.36	24.59
	エアゾール類		0.00	0.00	0.00	0.00	2.68	4.00	2.70	3.13
	小型家電製品		0.09	0.00	0.00	0.03	19.41	22.89	14.75	19.02
	アルミとの複合素材		—	—	—	—	—	—	—	—
	水銀使用製品	蛍光管	0.00	0.00	0.00	0.00	0.36	0.45	0.48	0.43
		割れていないもの								
		割れているもの								
	ガラスと金属の混合		0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.01
	プラスチック類	容器包装対象外	1.66	3.44	0.86	1.99	5.75	9.01	3.93	6.23
		50cm未満	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.59	0.22
		50cm以上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
	容器包装での汚れもの		2.73	2.40	1.21	2.11	0.00	0.01	0.00	0.00
	ゴム・皮革類		0.40	2.75	0.56	1.24	0.51	1.17	0.17	0.62
	繊維類		9.05	18.75	5.09	10.96	1.14	0.50	0.25	0.63
	ガラス類		0.18	0.00	0.00	0.06	26.75	23.39	26.92	25.69
	レジ袋		0.84	1.60	1.53	1.32	0.18	0.22	0.19	0.20
	その他		4.75	7.67	12.78	8.40	9.19	2.06	17.46	9.57
	ごみ 計		90.64	88.97	86.32	88.64	88.65	95.52	91.39	91.85
	合 計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	適正分類集計・構成比<5分別>		90.29	88.69	86.26	88.41	78.93	83.87	85.65	82.82

2 プラスチック容器包装（家庭系ごみ）の組成割合

単位：％

区 分		重量比			
		2021 (R 3)	2022 (R 4)	2023 (R 5)	平均
プラスチック 容器包装分	分別基準適合物	87.73	85.73	90.63	88.03
	レジ袋（資源ごみとして排出されたレジ袋）	0.80	0.80	0.66	0.75
	計	88.53	86.53	91.29	88.78
禁忌品・在宅医療品	カミソリ、ナイフ、カッター等（刃物）	0.02	0.01	0.00	0.01
	使い捨てライター	0.00	0.00	0.00	0.00
	電池	0.00	0.00	0.00	0.00
	注射針	0.00	0.00	0.00	0.00
	インスリン等の注射筒	0.00	0.00	0.00	0.00
	点滴バッグ	0.00	0.00	0.00	0.00
	カテーテル類	0.00	0.00	0.00	0.00
	計	0.02	0.01	0.00	0.01
異物	可燃ごみ	2.43	1.74	1.37	1.85
	不燃ごみ	0.42	0.54	0.25	0.40
	缶	スチール	0.07	0.01	0.03
		アルミ	0.00	0.00	0.00
	ガラスびん	0.21	0.00	0.10	0.10
	ペットボトル	0.44	1.13	0.54	0.70
	プラスチック・ビニール製品（プラ容器に間違いやすいもの）	2.61	2.25	1.53	2.13
	汚れたもの（食品残さが付着したもの）	5.27	7.79	4.90	5.98
計		11.45	13.46	8.71	11.21
合 計		100.00	100.00	100.00	100.00

3 事業系ごみの組成割合

単位：％

区 分				重量比	
				燃やせるごみ	燃やせないごみ
				2023 (R 5)	2023 (R 5)
資源になるもの	容器包装潜在分	トレイ		0.11	0.00
		包装フィルム・ラップ類・袋類		4.99	0.00
		パック・カップ類		1.60	0.17
		ボトル類		0.59	0.04
		発泡スチロール類		0.18	0.04
		アルミとの複合素材		0.14	0.00
		チューブ類		0.01	0.00
		レジ袋		0.00	0.00
		その他		0.15	0.08
	計		7.77	0.33	
	缶・びん・ペット分	缶	スチール	0.00	1.35
			アルミ	0.01	0.07
		ガラスびん		0.08	0.36
		ペットボトル		0.04	0.03
		計		0.13	1.81
	資源回収潜在分	ダンボール		1.41	0.00
		紙パック		0.33	0.00
		新聞		0.29	0.00
		雑誌		0.70	0.00
		紙製箱		0.43	0.00
		その他紙		8.59	1.69
	計		11.75	1.69	
	資源ごみ 計				19.65
ごみ	紙類	ダンボール		16.96	0.07
		食品未開封・未使用		2.09	0.00
	厨芥類	調理くず・その他		40.08	0.03
	草木類	50cm未満		5.83	0.00
		50cm以上		0.00	0.00
	金属類		0.02	32.41	
	エアゾール類		0.00	10.84	
	小型家電製品		0.00	19.70	
	プラスチック類	容器包装対象外	50cm未満	2.64	8.07
			50cm以上	0.00	1.26
		容器包装での汚れもの		3.75	0.00
	ゴム・皮革類		0.66	0.03	
	繊維類		0.71	0.01	
	ガラス類		0.00	23.48	
	レジ袋		0.81	0.01	
	その他		6.80	0.26	
	計		80.35	96.17	
合 計				100.00	100.00

4 食品ロス実態調査の調査結果

単位：％

区 分	重量比			
	家庭系			事業系
	2020 (R 2)	2022 (R 4)	平均	2023 (R 5)
調理くず	59.14	71.65	65.40	55.96
直接廃棄（手付かず食品）	13.51	8.64	11.08	4.94
食べ残し	22.96	15.34	19.15	37.11
その他	4.39	4.37	4.38	1.99
合 計	100.00	100.00	100.00	100.00

3 市民アンケートの調査結果

1 調査の目的

本調査は、市民のごみに関する認識や行動等を把握し、市民サービスの向上や効果的な施策のため、第4次一般廃棄物処理基本計画策定の基礎資料とすることを目的として「函館市の環境に関する市民アンケート調査」を実施した。

2 調査方法

- (1) 調 査 地 域 函館市全域
- (2) 調 査 対 象 18歳以上の函館市民
- (3) 配 布 数 1,000件
- (4) 抽 出 方 法 住民基本台帳による無作為抽出
- (5) 調 査 方 法 郵送配布～郵送回答およびWEB回答方式
- (6) 調査票送付 令和5年11月30日（木）
- (7) 回 答 期 間 令和5年12月1日（金）～令和5年12月25日（月）

3 回収状況

有効回収数（率） 395件／1,000件（39.5％）

函館市年齢階層別人口とアンケート回答数の比較

区分	人口		回答数	
	人数(人)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)
18～29 歳	22,014	10.3	22	5.6
30～39 歳	20,877	9.7	32	8.1
40～49 歳	30,887	14.4	55	13.9
50～59 歳	34,793	16.3	59	14.9
60～69 歳	34,209	16.0	76	19.3
70 歳以上	71,381	33.3	151	38.2
合計	214,161	100.0	395	100.0

※上記における人口は令和5年9月末日現在の18歳以上の人数である。

年齢層が高くなるにつれて回答数が多くなっており、回答数の構成比については人口構成比とあまり変わらない結果となっている。

4 調査結果（一部抜粋）

（１）ごみの減量やリサイクルについて

問１ ごみの減量やリサイクルについて、どのように感じていますか？

問１－１ ごみの減量やリサイクルに関心がありますか？

	非常に関心 がある	やや関心 がある	あまり関心 がない	全く関心 がない	わからない	計
回答数(件)	134	225	25	2	4	390
構成比(%)	34.4	57.7	6.4	0.5	1.0	100.0

「やや関心がある」が 57.7%で最も多かった。「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせると 92.1%となり、9割以上の市民が関心を持っているという結果となった。

問１－２ ごみの減量・リサイクルへの取組について、実行しているものはどれですか？（複数回答可）

ごみの減量・リサイクルへの取組	回答(件)	割合(%)
過剰包装は断る	216	54.7
使い捨て商品を購入しないよう心掛けている（紙コップ・割り箸等）	145	36.7
詰め替え商品の購入を心掛けている	278	70.4
マイバッグを持参し、レジ袋を断る	342	86.6
フリーマーケットやリサイクルショップを利用する	65	16.5
食材の買いすぎを控え、食べ残し、調理くずを出来るだけ出さない	247	62.5
生ごみは、水切りをしてからごみに出している	275	69.6
生ごみ処理機の使用や生ごみの堆肥化を行っている	30	7.6
フードドライブへ使わない食材を提供している	10	2.5
電気製品・衣料品は修理して長く使う	152	38.5
一時的に必要なものについては、レンタルの利用や中古品を購入している	77	19.5
小型家電製品を捨てる時は、回収ボックスを利用するようにしている	123	31.1
その他	7	1.8

「マイバッグを持参し、レジ袋を断る」が 86.6%で最も多く、次いで、「詰め替え商品の購入を心掛けている」が 70.4%、「生ごみは、水切りをしてからごみに出している」が 69.6%となっており、一定程度取組が浸透していることが分かった。

一方、「その他」を除き、「フードドライブへ使わない食材を提供している」が 2.5%で最も少なかった。

問 1－3 あなたのご家庭では、「資源物等」を普段どのルートに出していますか？

排出ルート 構成比(%) 資源物等の種類	市の資源ごみ収集	町会等の集団資源回収	専門の回収業者	スーパー等の店頭回収	古物問屋へ自己搬入	燃やせるごみ	燃やせないごみ	ほとんど排出しない	その他
缶	86.8	5.8	0.5	1.6	0.3		4.0	0.5	0.5
びん	88.8	4.0	1.1	1.6	0.0		3.2	0.8	0.5
ペットボトル	95.1			3.6	0.0	0.5		0.0	0.8
プラスチック容器包装	95.9			1.4	0.0	1.9		0.0	0.8
新聞・雑誌		56.6	17.7	6.0	3.9	3.9		9.4	2.5
ダンボール		64.1	14.5	6.5	4.6	4.9		2.4	3.0
雑がみ（紙箱・紙袋など）		53.0	9.9	4.4	3.6	24.9		1.7	2.5
紙パック		36.8	5.4	11.6	1.7	38.5		3.7	2.3
古着		2.2	6.4	3.6	10.9	59.1		11.7	6.1
廃食油			2.6	9.0		53.2		30.6	4.6

市が収集している資源ごみについて、「市の資源ごみ収集」を利用している割合は、「プラスチック容器包装」が 95.9%、「ペットボトル」が 95.1%、「びん」が 88.8%、「缶」が 86.8%の順で、いずれも 85%以上となった。

排出ルートのうち「町会等の集団資源回収」は、「ダンボール」が 64.1%、「新聞・雑誌」が 56.6%、「雑がみ（紙箱、紙袋など）」が 53.0%であり、「燃やせるごみ」は、「古着」が 59.1%、「廃食油」が 53.2%、「紙パック」が 38.5%であった。

問 1－4 生ごみをどう処理していますか？

	収集に出さず、 全て自己処理に より資源化して いる	一部収集に出 し、残りは自己 処理により資源 化している	全て収集に 出している	その他	計
回答数(件)	6	29	341	4	380
構成比(%)	1.6	7.6	89.7	1.1	100.0

「全て収集に出している」が 89.7%で最も多かった。「収集に出さず、全て自己処理により資源化している」と「一部収集に出し、残りは自己処理により資源化している」を合わせた「生ごみを自己処理している人」の割合は 9.2%となり、約 1 割の市民が生ごみの自己処理を行っているという結果となった。

問 1－5 生ごみの資源化に利用しているものはどれですか？【前問で「収集に出さず、全て自己処理により、資源化している」、「一部収集に出し、残りは自己処理により資源化している」と答えた人のみ。（複数回答）】

	電動生ごみ 処理機	コンポスト 容器	ぼかし肥 容器	ダンボール コンポスト	その他	計
回答数(件)	2	17	4	3	9	35
構成比(%)	5.7	48.6	11.4	8.6	25.7	100.0

「コンポスト容器」が 48.6%で最も多かった。市の事業（今後実施予定を含む）でもある「ダンボールコンポスト」は 8.6%、「電動生ごみ処理機」は 5.7%であった。

（2）プラスチックごみ問題について

問 2 プラスチックごみ問題について、あなたの状況はどうですか？

問 2－1 プラスチックごみ問題（海洋汚染など）に関心がありますか？

	関心がある	ある程度 関心がある	あまり関心 がない	全く関心 がない	計
回答数(件)	184	179	24	0	387
構成比(%)	47.5	46.3	6.2	0.0	100.0

「関心がある」が 47.5%で最も多かった。「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると 93.8%であり、回答者のほぼ全員がプラスチックごみ問題に関心を持っているという結果となった。

問 2－2 プラスチックごみによる海の汚染について、知っていること全ての項目にチェックをつけてください。（複数回答）

プラスチックごみによる海の汚染について知っていること	回答数(件)	割合(%)
ポイ捨てや放置されたプラスチックごみが、河川などを通じて海へ流出していること	353	89.4
海の生物がプラスチックごみに絡まったり誤飲することで、傷ついたり死んだりしていること	357	90.4
マイクロプラスチックによる海洋生態系への影響が懸念されていること	253	64.1
プラスチックごみが海岸へ漂着し、景観が悪化するなどの影響が生じていること	322	81.5
その他	12	3.0

「海の生物がプラスチックごみに絡まったり誤飲することで、傷ついたり死んだりしていること」が 90.4%で最も多く、「ポイ捨てや放置されたプラスチックごみが、河川などを通じて海へ流出していること」が 89.4%で続いた。

問 2-3 あなたは、プラスチックを使用した様々な製品やサービスの中で、過剰だと思うものはありますか？（複数回答）

プラスチック使用製品・サービスで過剰だと思うもの	回答数(件)	割合(%)
レジ袋	91	23.0
飲み物と一緒に提供されるストロー	103	26.1
飲み物と一緒に提供されるかき混ぜ棒・マドラー	136	34.4
食べ物と一緒に提供されるスプーンやフォークなど	91	23.0
お弁当で使われている使い捨て小分け用容器や飾り	180	45.6
ペットボトルのラベル	160	40.5
菓子類などの個包装	98	24.8
スーパーなどのレジの近くに置いてあるロール状のポリ袋	38	9.6
通販などで運搬の際に使用される包装や緩衝材	127	32.2
カミソリやくしなどのアメニティグッズ	91	23.0
クリーニングで提供されるハンガーや衣類用のカバー	106	26.8
その他	10	2.5

「お弁当で使われている使い捨て小分け用容器や飾り」が 45.6%で最も多く、「ペットボトルのラベル」が 40.5%で続いた。

問 2-4 プラスチックごみ削減について、次のうち実行している全ての取組項目にチェックをつけてください。（複数回答）

プラスチックごみ削減の取組	回答数(件)	割合(%)
買い物の際、マイバッグを持参し、レジ袋を使用しない	329	83.3
買い物の際、フォーク、スプーンおよびストローなどの使い捨てプラスチックの提供を断るようにしている	183	46.3
旅行などの際、歯ブラシやかみそりなどを持参し、備え付けの使い捨てプラスチックの使用を控えている	153	38.7
プラスチックではない代替素材の商品を購入するようにしている	40	10.1
食品トレイなどのプラスチックの店頭回収を利用している	68	17.2
外出時は、マイボトルを持参するようにしている	153	38.7
その他	5	1.3

「買い物の際、マイバッグを持参し、レジ袋を使用しない」が 83.3%で最も多く、「買い物の際、フォーク、スプーンおよびストローなどの使い捨てプラスチックの提供を断るようにしている」が 46.3%で続いた。

(3) 食品ロス問題について

問3 食品ロス問題について、あなたの状況はどうですか？

問3-1 「食品ロス」という問題を知っていますか？

	よく 知っている	ある程度 知っている	あまり 知らない	全く 知らない	計
回答数(件)	236	142	9	3	390
構成比(%)	60.5	36.4	2.3	0.8	100.0

「よく知っている」が60.5%で最も多かった。「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせると96.9%となり、回答者のほぼ全員が食品ロス問題を知っているという結果となった。

問3-2 ご家庭で食品ロスの削減に取り組んでいますか？

	取り組んでいる	取り組んでいない	計
回答数(件)	336	56	392
構成比(%)	85.7	14.3	100.0

家庭で食品ロスの削減に「取り組んでいる」人の割合は85.7%となった。

問3-3 どのような取組を行っていますか？【前問で「取り組んでいる」と答えた人のみ。(複数回答)】

家庭での食品ロス削減の取組	回答数(件)	割合(%)
食べ切れる量を購入する	247	62.5
冷凍保存を活用する	293	74.2
料理を作り過ぎない	183	46.3
冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認する	196	49.6
残さず食べる	212	53.7
賞味期限切れでもすぐに捨てずに、自分で食べられるか判断する	259	65.6
食べ切れなかったものを他の料理に作り替える	144	36.5
その他	5	1.3

「冷凍保存を活用する」が74.2%で最も多く、「賞味期限切れでもすぐに捨てずに、自分で食べられるか判断する」が65.6%で続いた。

問3-4 外食や宴会で食品ロスの削減に取り組んでいますか？

	取り組んでいる	取り組んでいない	計
回答数(件)	257	120	377
構成比(%)	68.2	31.8	100.0

外食や宴会で食品ロスの削減に「取り組んでいる」人の割合は68.2%となった。

問3-5 どのような取組を行っていますか？【前問で「取り組んでいる」と答えた人のみ。（複数回答）】

外食や宴会での食品ロス削減の取組	回答数(件)	割合(%)
食べ切れる分量を注文している (注文しすぎない、ご飯を小盛にするなど)	238	60.3
宴会開始時には、まず料理を食べるようにしている	76	19.2
苦手な料理や量が多い時は食べられる人に食べてもらう	128	32.4
宴会終了直前、終了後に残った料理を食べ切るようにしている	63	15.9
お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている	102	25.8
その他	4	1.0

「食べ切れる分量を注文している（注文しすぎない、ご飯を小盛にするなど）」が 60.3%で最も多く、「苦手な料理や量が多い時は食べられる人に食べてもらう」が 32.4%で続いた。市が促進している取組の一つである「お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている」は 25.8%であった。

問3-6 飲食店の食品ロスを減らすため、お店はどのようなことをするのが効果的だと思いますか？（複数回答）

飲食店での食品ロス削減の効果的な取組	回答数(件)	割合(%)
小盛メニューなど量を選べるようにする	248	62.8
食べ残しを持ち帰りができるようにする	247	62.5
食べ切ったお客様にポイントなどの特典を与える	64	16.2
店員から食べ切りの声かけをする	20	5.1
その他	8	2.0

「小盛メニューなど量を選べるようにする」が 62.8%、「食べ残しを持ち帰りができるようにする」が 62.5%と同程度の割合となった。

(4) 集団資源回収について

問4 集団資源回収について、あなたの状況はどうか？

問4-1 町会等で行っている新聞、雑誌、ダンボール等を無料回収する「集団資源回収」を利用していますか？

	利用している	利用していない	計
回答数(件)	282	96	378
構成比(%)	74.6	25.4	100.0

集団資源回収を「利用している」人の割合は 74.6%となった。

問４－２ ティッシュペーパーやお菓子の空き箱などの「雑がみ」は、どのように出していますか？【前問で「利用している」と答えた人のみ。】

	集団資源回収に出している	燃やせるごみに出している	その他	計
回答数(件)	193	85	5	283
構成比(%)	68.2	30.0	1.8	100.0

雑がみの排出方法としては、「集団資源回収に出している」が68.2%で最も多かった。

問４－３ 「雑がみ」を集団資源回収に出さない理由は何ですか？【前問で「燃やせるごみに出している」、「その他」と答えた人のみ。(複数回答)】

雑がみを集団資源回収に出さない理由	回答数(件)	割合(%)
雑がみという区分を知らなかった	44	48.9
手間がかかる	14	15.6
雑がみの対象がわかりにくい	39	43.3
雑がみがあまり出ない	9	10.0
回収日まで家庭内に保管するスペースがない	10	11.1
その他	5	5.6

「雑がみという区分を知らなかった」が48.9%で最も多く、「雑がみの対象がわかりにくい」が43.3%で続いた。

問４－４ 利用しない理由はなぜですか？【問４－１で「利用していない」と答えた人のみ。】

集団資源回収を利用しない理由	回答数(件)	割合(%)
町会未加入だから利用できないと思っているため	16	16.8
収集頻度が少なく利用しづらいため	31	32.6
出す場所が分からないため	23	24.2
仕分けが面倒であるため	3	3.2
その他	22	23.2

「収集頻度が少なく利用しづらいため」が32.6%で最も多く、「出す場所が分からないため」が24.2%で続いた。

4 計画策定までの経緯

1 経過

2022 年度（令和4年度）

- 9月 家庭系ごみ組成分析調査（燃やせるごみ）
家庭系食品ロス実態調査

2023 年度（令和5年度）

- 7月 プラスチック容器包装（家庭系ごみ）組成分析調査
- 9月 家庭系ごみ組成分析調査（燃やせないごみ）
- 10月 事業系一般廃棄物組成分析調査（燃やせるごみ，燃やせないごみ）
事業系食品ロス実態調査
- 12月 市民アンケート調査

2024 年度（令和6年度）

- 8月 廃棄物減量等推進審議会開催
第4次一般廃棄物処理基本計画策定について説明
- 12月 廃棄物減量等推進審議会開催
第4次一般廃棄物処理基本計画素案についての諮問および調査，審議
- 1月 廃棄物減量等推進審議会開催
第4次一般廃棄物処理基本計画素案についての調査，審議および答申
- 2月 政策会議
第4次一般廃棄物処理基本計画案の協議
- 2月 第4次一般廃棄物処理基本計画案に対するパブリックコメント（意見公募）手続の実施
- 2月 市議会民生常任委員会に第4次一般廃棄物処理基本計画案の報告
- 3月 第4次函館市一般廃棄物処理基本計画の決定

2 函館市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

区 分	氏 名	役職名等
学識経験のある者	平 沢 秀 之	函館工業高等専門学校 教授
	一 戸 裕 之	函館短期大学 教授
関係団体の代表者	宮 崎 良 一	函館再生資源事業協同組合 理事長
	川 口 健 治	(特非) 函館消費者協会 函館市消費生活センター統括管理者
	川 口 勝 也	連合北海道函館地区連合会 副会長
	本 間 税	(一社) 函館青年会議所 理事長
	松 崎 静 江	函館市町会連合会 常任理事(環境部長)
	菅 尚 広	(一社) 北海道中小企業家同友会函館支部 事務局長
	青 山 森 一	函館清掃事業協同組合 副理事長
その他市長が必要 と認める者	亀 井 佑 樹	生活協同組合コープさっぽろ函館地区本部 日用品 SV
	宮 越 隆 弘	イオン北海道(株)函館事業部 SM エリアマネージャー
	横 向 いず海	アースデイ函館実行委員会 代表
	清 藤 千鶴子	公募
	宮 下 勝 弘	公募
	柿 崎 陽 子	公募

※2024 年(令和6年) 5 月 24 日現在

(敬称略)

3 パブリックコメント

(1) 周知方法

市政はこだて 2025 年（令和 7 年）2 月号，函館市ホームページ

(2) 実施期間

2025 年（令和 7 年）2 月 10 日（月）～2025 年（令和 7 年）3 月 11 日（火）

(3) 対象者

- ・ 市内に住所を有する方
- ・ 市内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体
- ・ 市内に存する事務所または事業所に勤務する方
- ・ 市内に存する学校に在学する方
- ・ パブリックコメント手続に係る事案に利害関係を有する個人および法人

(4) 第 4 次函館市一般廃棄物処理基本計画案の閲覧

函館市ホームページ，市役所本庁舎 i スペース，環境部環境推進課，各支所（亀田，湯川，銭亀沢，戸井，恵山，楳法華，南茅部）

(5) 実施結果

- ・ ご意見の提出はありませんでした。

5 用語の解説

SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は，平成27年に国連総会で採択された令和12年までに達成を目指す17の国際社会共通の目標のことで，貧困の撲滅，地球環境の保護，すべての人々の平和と繁栄を促進することを目的とし，誰ひとり取り残さないことを理念としている。

温室効果ガス

大気中に存在し，太陽からの熱を地球に封じ込め地表を温める働きがあるガスのことで，国連気候変動枠組条約締約国会議で採択された京都議定書では，二酸化炭素やメタン，一酸化二窒素などの6物質が温室効果ガスとして削減対象となっている。

合併処理浄化槽

し尿と合わせて生活雑排水を処理する設備のこと。

許可業者

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）の規定による基準を満たし，市町村から一般廃棄物の収集運搬を事業として行うことを許可された業者のこと。

下水道しき

下水処理の過程で取り除かれるごみや異物のことで，主に紙，髪の毛，繊維，ビニールなどが含まれる。

コロナ禍

令和元年末に中国で確認された新型コロナウイルスの感染拡大により、全国的に外出や経済活動の自粛などの感染症拡大防止措置がとられ、多くの人々に影響を与えた事象。この措置により本市においても令和2年から家庭系、事業系ごみの排出状況に大きく影響があった。

雑がみ

お菓子やティッシュの箱、トイレットペーパーの芯、紙袋などのリサイクル可能な紙類のこと。

3R（スリーアール、さんアール）

Reduce（リデュース：発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の3つの頭文字をとったもの。循環型社会形成推進基本法において、3Rの考え方や処理の優先度が①リデュース、②リユース、③リサイクルの順に明文化された。

資源化処理残さ

資源ごみの中間処理の過程で発生する可燃性、不燃性の残留物のこと。

指定法人

容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）第21条の規定により再商品化業務を適正かつ確実に行うことができると認められ、主務大臣により指定された法人で、（公財）日本容器包装リサイクル協会が唯一指定を受けている。

循環型社会

大量生産・大量消費・大量廃棄型社会に代わるものとして提示された概念で、廃棄物等の発生抑制、循環可能な資源の循環的利用、廃棄物の適正な処分の確保により天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

循環型社会形成推進基本法（循環基本法）

循環型社会の形成を推進するための基本的枠組みを定めた法律で、廃棄物の削減やリサイクルの促進による循環型社会の形成に向け実効性のある取組の推進を図るものとして平成12年に制定された。

使用済み小型家電製品

使用済み小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律（小型家電リサイクル法）により定められた、デジタルカメラやゲーム機などの一般消費者が通常生活の用に供する電子機器その他の電気機械器具のことで、機器に含まれる貴金属、レアメタル等のリサイクルは環境保護と資源の有効活用のために重要とされている。

賞味期限と消費期限

食品の安全性と品質を示すために表示される情報で、おいしく食べられる期限を賞味期限、安全に食べられる期限を消費期限という。

食品ロス

食べ残し、売れ残りや賞味期限や消費期限が近いなどのさまざまな理由で、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。

食品ロス削減推進計画

食品ロスの削減の推進に関する法律（食品ロス削減推進法）に基づき、国や地方自治体が食品ロスを減らすために策定する包括的な計画で、食品ロスの現状を把握し、施策を設定することを目的としている。

食品ロスの削減の推進に関する法律（食品ロス削減推進法）

世界には栄養不足の状態にある人々が多数存在する中、食料の多くを輸入に依存している一方、大量に廃棄している現状がある我が国として真摯に取り組む課題であるとの認識から令和元年に制定され、国・地方自治体、事業者、消費者等が連携し、国民運動として食品ロスの削減を推進するために、食べ物を無駄にしない意識の醸成やまだ食べることができる食品はできるだけ食品として活用していくことが重要であるとしている。

生活雑排水

生活排水のうち、し尿や水洗便所からの排水を除いた台所、洗濯、風呂などからの排水のこと。

単独処理浄化槽

し尿のみを処理する設備のことで、平成13年4月1日以降の新設が禁止された。

ばいじん

工場、事業場から発生する粒子状物質（PM）のうち、燃料その他の物の燃焼等に伴い発生する物質。

バグフィルタ

ごみを焼却する際に発生する排ガスに含まれるばいじんなどをろ過捕集するための集じん装置。

函館市廃棄物減量等推進審議会

学識経験者、経済界・市民団体等の関係団体の代表者、廃棄物の減量・リサイクルを実践している事業所のほか、公募により選出された市民で構成され、本市の一般廃棄物の排出抑制および再生利用の推進等を審議し、行政の施策に反映させることを目的に設置している。

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック資源循環促進法）

海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題などへの対応を契機として、プラスチックの製造、使用、排出、再資源化の段階それぞれにプラスチック資源の循環を求め、プラスチックの利用を最小限にし、プラスチック製品はできるだけ長く使い、廃棄の際は分別を徹底しリサイクルすることによるプラスチック資源の循環的利用の促進を目的とした法律で令和4年に施行された。

レアメタル

レアメタルは、地球上にほとんど存在しない採掘や精錬が難しいなどの理由から希少とされている金属のことで、医療機器や液晶テレビ、パソコン等の電子機器、自動車などの製造に欠かせない素材とされている。